

大谷幼稚園 3月のおたより

「卒園おめでとうございます」

園長 たなか たかあき 田中 貴章

このおたよりがお手元に届くころは、卒園式が終わった後だと思えます。さくら組、きく組のみなさん、そして、保護者のみなさま、ご卒園おめでとうございました。入園式を迎えたのもつい先日のことになってしまうほど月日が過ぎるのを早く感じます。在園中の送迎や、園行事など、保護者さまあつての園生活が終わりを迎えました。卒園式の練習を重ねる中、年長さんを晴々笑顔で小学校へと見送る気持ちに反して、さみしい気持ちが優ってしまうのが今の正直な心境です。保育室で日々生活を共にした教職員はより一層そんな気持ちを強く感じているのではないのでしょうか？保護者さまにおかれましても、それこそ、雨の日も晴れの日も雪の日も、お子さまと共に歩まれた時間の



で、喜びや悲しみなど、様々な感情を抱かれたことと存じます。お子さま達は、そんな周りの大人の気持ちに込められた、目に見えない大切なものを感じながら卒園式を迎えることができたことでしょうか。それは、お子さま達が、家族の皆さまや職員、そしてお友達から、かけられる言葉から相手の感情に気づき、その中に込められた思いを感じる。つまり、見えないものを、お子さま達自身の、見える・聞こえる・触れる・嗅げる・味わえるという「五感」を通して感じる事ができた園生活だった証明です。



また、幼稚園教育要領の中には「生きる力」の基礎を育成するために、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域が定められています。これはお子さまの成長を5つの側面からとらえたもので、子どもの育ちを見る窓口になるものです。領域は5つに分かれて示されていますが、実際の幼稚園生活においては5つの側面が絡み合い、それぞれの領域が相互に影響しあいながら、園生活では「生きる力」が育まれてきました。お子さまのこれからの小学校生活では全てのことが皆と同じということはありません。総合的な学習から教科ごとに分かれた学習方法に移行します。それに伴い、評価や順位をもとに成績が記録され、優劣などが具体的に評価されます。しかし、そんな中であっても、もっとお子さまにとって大切なことは、成績や数字だけでは表されないことという考えを、周りの大人がお子さまに発し続けていくことだと思います。決して人間的価値は数値だけでは測れません。お子さまの存在は、すべての事柄とつながり合い、共生していきます。私はそんなお子さまとこれからも共生していけるものと考えています。またいつでも大谷幼稚園においでいただき、お子さまの成長した姿を見せに来てください。

最後に、園生活を振り返り、我々職員に至らぬ点多々あったかと存じますが、園運営にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。ご卒園を心からお祝い申し上げますとともに、お子さまと保護者の皆さまの益々のご活躍やご健康をお祈りしています。

